

第1章 まち（都市）づくりの目標

1. まちの将来像

「緑豊かな田園文化のまち」

南幌町では、地方自治体を取り巻く社会経済環境の変化、また、出生数の減少による少子化の進行及び高齢化にともなう老年人口の増加など少子高齢化社会の対応などを踏まえた「第6期総合計画（平成29年度から平成38年度）」を今年度策定しました。

今年度策定する総合計画では、地域に関わる全ての人々が笑顔で活躍するまちを目指し、緑豊かな田園文化のまちを将来像とする計画としており、実現にあたり南幌町民憲章の意義を理解しつつ、まちづくりの原動力となる町民の力、地域と地域に関わる全ての力を十分に生かしながら、安全安心で住む人も訪れる人も笑顔と活気にあふれる南幌町を築くため、まちづくりの基本理念により計画を進めます。

都市計画マスタープランでは、この将来像の実現に向けて、農村景観を主体として水と緑に親しむことのできる空間を生かしながら、交通の利便性を高め、計画的に整備された市街地に交通、公共的施設等の都市機能の集積を図ることにより、歩いて暮らせる快適なまちづくりや市街地内での町民の交流、近郊都市との交流など様々な交流を育む賑わいのあるまちづくりを進めていきます。

2. 都市計画マスタープラン策定の視点

本計画は、上位計画の「第6期南幌町総合計画」や北海道が策定する「南幌都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して行い、以下の視点で整理しました。

①南幌の特色づくり

水田と畑などと調和した防風林で構成される自然環境豊かな美しい田園風景を、南幌町の田園文化を象徴に表す地域の個性として認識し、南幌町独自の魅力ある地域づくりの根幹として位置付けながら、町民の豊かな生活の実現と町民相互の交流及び近郊都市との交流の拡大を図ります。

②町民とともに進める持続的な地域づくり

緑に囲まれた美しい自然環境のなかでまちづくり、うるおいとやすらぎのある生活空間を形成するため行政と町民・事業者が一体となって持続的な地域づくりを進めていくことを共通目標とします。

③南幌を支える産業基盤との調和

防風林などの緑が広がる田園地帯が今後も存続されていくために、農地の適切な保全に取り組むことは、豊かな農作物を産出する農業が将来的にも確立されていくことに繋がることから、南幌町を支える産業基盤である農業と調和した地域づくりを進めます。

3. まち（都市）づくりの目標

まちの将来像である「緑豊かな田園文化のまち」の実現に向けて、都市計画マスタープラン策定の視点及びまち（都市）づくりの現状をもとに、以下の4つのまち（都市）づくりの目標を掲げます。

1) まち（都市）づくりの4つの目標

①田園風景と快適な暮らしを支える土地利用の形成

健全な農業の維持と発展のため優良な農地としての保全に努めるとともに、田園風景と調和した防風林・街路樹の保全と整備及び諸機能が集積したコンパクトな市街地の形成を図ります。

②交流を支える交通網の形成

地域高規格道路である道央圏連絡道路を活用した広域交通網による小樽・石狩圏、千歳・苫小牧圏などの周辺市町との交流の促進と、水と緑を生かした散策路等によるネットワークの形成を図ります。

③防風林と河川からなる水とみどりの骨格軸の形成

水辺の保全と利用、防風林、河畔林、街路樹などの骨格的な水と緑を生かしながら身近な居住環境の緑の保全に努め、水と緑のネットワーク形成を図ります。

④安心して楽しく暮らせる住宅・住環境の形成

町民・事業者の協力により、市街地と町全体における住環境の向上を図る緑豊かな生活環境づくりと、高齢者や子育て・若年世帯などすべての住民が安心して暮らせる利便性の高いまちの中心軸の形成を図ります。

2) 将来フレーム

南幌町の人口は、みどり野団地の造成と販売（南幌市街地）、農村住環境整備事業による住宅地造成と販売（夕張太地区）などにより、平成10年に10,000人を越えましたが、平成28年10月1日現在では7,816人に減少し、今後は、町外への転出者の増加及び出生率、自然減等による年少人口等の減少によりさらなる人口の減少が予測されます。平成38年における本町の人口・世帯数は、7,451人・3,240世帯を想定しています。なお、将来的にみどり野団地の完売等による人口増を考慮した場合には、10,000人・4,350世帯とし、みどり野団地未造成地等の団地開発を見込んだ場合の居住可能な人口は、12,600人とします。

■ 南幌町の将来の人口推計

区 分	実 績			人口推計	
	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成28年 (2016年)	平成38年 (2026年)	目標
総人口	9,564人	8,778人	7,816人	7,451人	10,000人
世帯数	3,120世帯	3,068世帯	3,442世帯	3,240世帯	4,350世帯
一世帯あたりの人員	3.1人	2.9人	2.3人	2.3人	2.3人

3) 将来都市構造

① 快適でコンパクトな市街地の形成

南幌市街地は、現行用途地域の範囲を基本としながら、計画的に整備された利便性の高い快適で歩いて暮らせるコンパクトな市街地の形成を図り、地球環境時代に対応した低炭素型都市構造への転換を目指すとともに、加えて北海道が推進する北の住まいるタウンについて連携して検討を行います。

環境にやさしい持続可能なまちづくりを実現するために、木質バイオマスなどの地域資源の循環利用などを踏まえた北の住まいるタウンを目指します。

夕張太地区の住宅地については、農村環境と調和したコミュニティの維持を図りながら、市街地づくりの形成を図ります。

② 緑豊かな田園都市づくり

南幌を取り囲み、農地・河川に豊かで清らかな水を提供するとともに、南幌の魅力を高める緑豊かな田園都市をイメージするまちづくりを図ります。

③ 町の案内標識の設置

南幌町としてのイメージを高めるために、町の入り口などで案内標識の設置を図ります。設置する標識は地域の特性を生かしたデザインを取り入れ、統一感のあるものとします。

④ 交通軸の設定

小樽・石狩圏から千歳・苫小牧圏が結ばれる地域高規格道路の道央圏連絡道路の整備により近郊市町村からの利用者の増加も見込まれることから、市街地への積極的な誘導を行い活性化を図ります。南幌町と江別市、北広島市、岩見沢市、長沼町などの近隣市町を結ぶメインルートに沿って、緑豊かな南幌町を印象づける街路樹の保全・整備と歩道の整備に努めます。未造成地の利活用も含め、長期未着手の都市計画道路については、将来の都市像を考慮し見直しを含めた検討を進めます。公共交通の利用促進のために沿道の土地利用と連動した公共交通軸の形成や交通結節点（パークアンドライド駐車場）の利用を推進します。

⑤ 歩行者等を優先したネットワークの形成

南幌市街地、夕張太地区、晩翠地区及び三重地区をそれぞれ結ぶ、安全で快適な歩行者等を優先したネットワークの形成を図ります。幌向運河や千歳川などの水辺を生かした散策路等によるネットワークの形成を図ります。南幌町を取り囲む千歳川、旧夕張川、夕張川などの河畔林を生かしながら緑豊かな田園都市をイメージするまちづくりを図るとともに、南幌をぐるっとまわる散策路等によるネットワークの形成を図ります。

将来都市構造図

